

2015年3月期 決算説明会資料

2015年5月12日



PUNCH INDUSTRY

パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

本日の内容

1. 経営環境
2. 2015年3月期 決算概況
3. 2016年3月期 業績予想
4. 中期経営計画
「バリュークリエーション15」の進捗
5. 参考資料

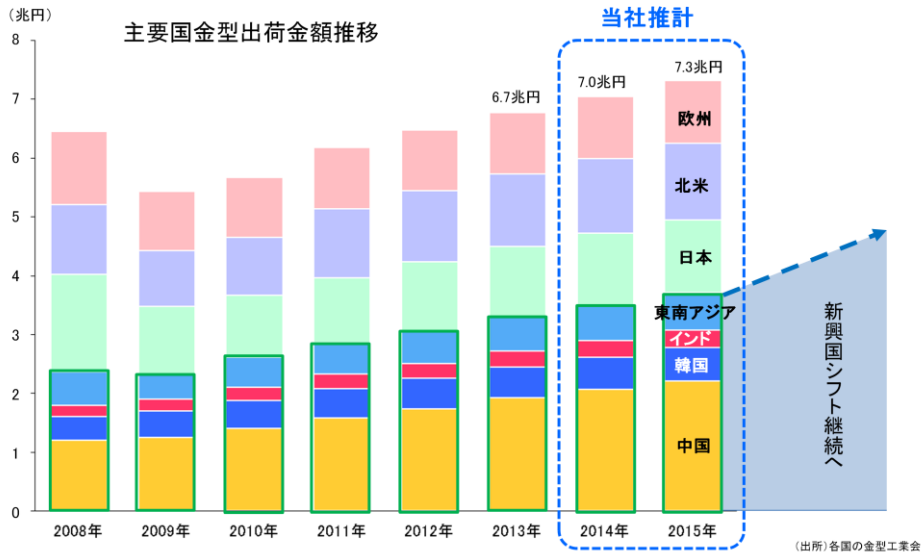
1. 経営環境

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶ 経営環境についてです。

金型市場の予想(金額)

リーマンショック直後をボトムに着実に回復。緩やかながらも成長基調。



▶ 世界の金型市場の動向です。

□ 各国の金型市場規模は2009年にリーマンショックで大きく落込んだものの、その後、中国を中心とした新興国が牽引車となって着実に回復しており、今後も成長基調が見込まれています。

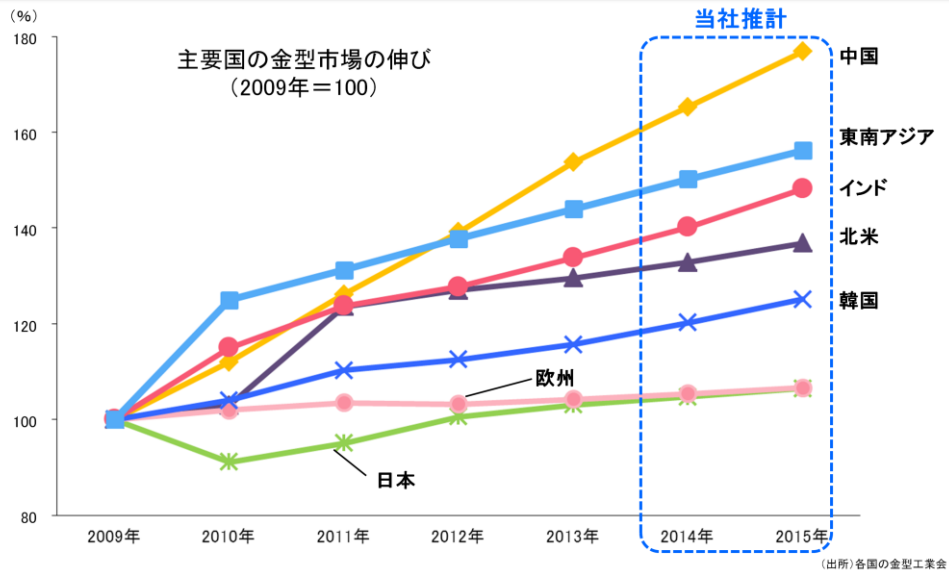
□ 当社推計では、2015年には7.3兆円規模を想定しています。

□ 金型部品の市場規模としては、金型市場規模の約7%レベルと考えておりますので、
終了した2014年で、4,900億円
2015年で、5,000億円超
の規模と見ています。

□ 金型市場も、金型部品市場も着実に右肩上がりという認識です。

金型市場の予想(成長性)

金型需要は成熟市場から新興国市場(中国・インド・東南アジア)へシフト。



▶リーマンショック後の2009年を100とした、各国の金型市場の伸びを示したものです。

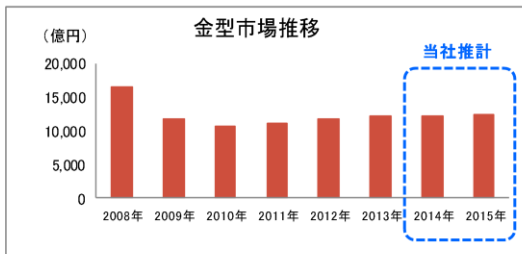
□日本、欧州などの成熟国は横ばい或いは緩やかな成長にとどまる中、中国、インドといった新興国は大きく伸長しています。

□即ち、金型需要は成熟市場から新興国市場にシフトしており、ここでの事業拡大が大きな課題となっています。

□成熟国ながらも北米については、自動車を中心に伸びている点も注目しています。

□このような業界動向も踏まえ、当社グループが事業を行っております、日本、中国、そして東南アジア・インドについて、それぞれの状況及び当社の考えについてご説明します。

国内市場



消費税率の見直しによる反動減はあったものの、自動車、家電・精密機器が堅調に推移。設備投資需要の回復で産業機械は大幅増。
技術革新著しい3Dプリンターの動向に注目。

顧客業界動向

自動車

消費税率見直しによる調整はあったものの、生産台数は前年を上回った。

電子部品

スマートフォンの需要が一巡ながら、前年並みを維持。

その他

産業機械は、内外の幅広い業種で設備投資が回復し大幅増。

課題

食品・飲料関連等の新分野への積極的な取り組み。

国内市場です。

□金型市場規模としては1.2兆円で微増傾向と見ています。

□お客様のトレンドは下記の3つです。

①高付加価値製品 ②競争力あるコスト ③短納期

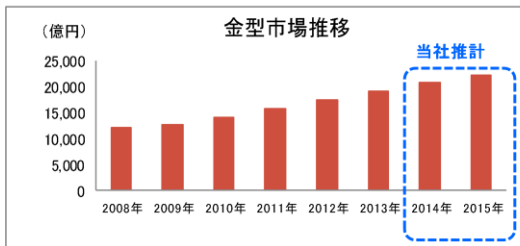
□このニーズに的確に応えていく為、特に当社としては、「難しいもの」へのチャレンジが大きなポイントであると認識しています。そして、従来にも増して、微細加工技術や高精度技術のレベルアップが、その為の設備投資も含め、大きな課題と認識しています。

□特に、当社が注力している、飲料関連、医療関連、そしてグループ全体でチャレンジしていこうという航空機関連、等々の分野については、最終的には技術力が勝負のポイントと考えていますので、そういう意味でも技術開発には積極的に取り組みます。

□また、3Dプリンター、特に3Dメタルプリンターの動向ですが、製造される製品の強度や硬度、使用出来る素材(金属粉末/メタルパウダー)の拡がり、仕上げ加工機との一体となった複合機の開発など、著しい技術革新が進んでいます。

□当社としては、2010年から金属光造形技術による製品開発に取り組んでいますが、そのことが、いよいよ本格化しつつあるとの認識から、従来の取り組みを、事業モデルの最適化等も含め、更に一歩進めていきたいと考えています。

中国市場



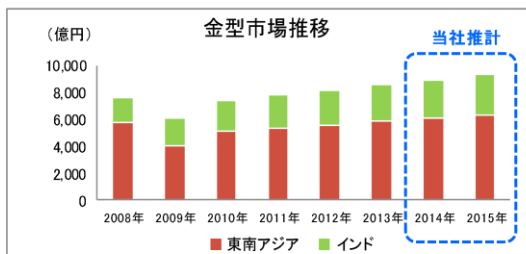
経済成長には減速感があるものの、好調な自動車に加え、電子部品・半導体、家電・精密機器等の幅広い業種で成長を維持。

顧客業界動向	自動車	2014年の生産台数は2,372万台、2015年には2,538万台となる見込み。
	電子部品	2014年に大幅に伸長したスマートフォン市場は、2015年も引き続き拡大する見込み。
	その他	半導体、家電、精密機器等も堅調。
課題	戦略製品や医療関連等の高付加価値製品への取組みと航空宇宙関連の開拓。	

▶ 中国市場です。

- 2015年の自動車生産台数も2,500万台を超えと言われており、また、スマートフォン市場の拡大もありますので、金型市場も成長していくであろうと考えています。安定成長とはいいながらも、あの巨大市場が「成長」していくという点は、当社としましてもポジティブに捉えています。
- 当社は、1990年に中国へ進出し、今年で25年を迎えますが、目まぐるしく変化する外部環境に対応しながら成長してきた中国パンチグループの強固な事業基盤をベースに、各施策に取り組めます。
- 具体的には、戦略製品や医療関連などの高付加価値製品の拡販に更に注力します。また、従来からのISO9001(品質マネジメントシステム)に航空機産業向け特有の要求事項が追加された世界標準の品質マネジメントシステムであるAS9100を取得することが出来ました。

東南アジア・インド市場



【東南アジア】インドネシア、ベトナム、マレーシア、フィリピン等が牽引し、全体で5%の成長を維持。

【インド】新政策Make in Indiaで、成長率も7%超と回復基調。

顧客業界動向

自動車

生産台数は、インドネシアやマレーシアでは増加したが、タイが減税措置終了の影響等で減少し、全体では前年割れ。

電子部品

低価格のスマートフォンの需要が旺盛で好調を維持。

その他

半導体や家電が堅調に推移。

課題

事業拡大と成長市場でのポジションの確立。

▶ 東南アジア・インド市場です。

- 東南アジアについては、国によって様々な産業集積が形成されていますので、各国のニーズを的確に捉え、東南アジアにおけるポジションを確立することが課題であると認識しています。

【当社の具体的な取組み】

ベトナム→ハノイでの営業活動を更に強化

インドネシア→引き続き自動車をコアに、合併のシナジー効果も追及

シンガポール→パンチグループ製販一体の強みを活かし、新たな分野の開拓

- インドについては、モディ政権の外資製造業を積極的に誘致するための「Make in India(インドでモノづくりを)」構想により経済成長が加速し、金型市場の集積も徐々に進むと考えており、当社もじっくりと取組みます。

2. 2015年3月期 決算概況

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶ 2015年3月期の決算概況です。

2015年3月期 決算ハイライト

海外が大きく伸長したことに加え、国内が堅調に推移し、増収増益を確保。中期経営計画「バリュークリエイション15」の達成へ大きく近づいた。

売上	連結	連結売上高は、前年比117%、50億円増の344億円となった。
	日本	旺盛な設備投資需要もあり、産業機械が大幅に回復したことに加えて、自動車や家電・精密機器が堅調に推移し、前年比6%増の152億円となった。
	中国	好調な自動車に加え、電子部品・半導体など幅広い業種が堅調。戦略製品も二桁増となり、前年比25%増の162億円となった。
	その他	東南アジアグループの連結効果もあり、東南アジア、欧州での売上拡大で前年比44%増の29億円となった。
利益		売上増に加え、仕入れコスト低減、工場稼働アップによる原価率の低減及び単体収益体質改革活動の成果もあり、営業利益は前年比148%、5.6億円増の17.2億円となった。同時に、経常利益、当期純利益も前年を大きく上回った。
ネット資金		当期純利益の大幅増と公募増資により、期首より23.6億円改善した。

▶ 2015年3月期の決算ハイライトです。

□ 国内売上は、幅広い業種で堅調に推移しました。中国は、好調な自動車に加え、高付加価値製品である戦略製品も引き続き順調に拡大しました。そして、一昨年にグループ会社化した東南アジアグループがフルイヤーで連結された効果もあり、グループ全体で増収増益を確保することができました。

□ 資金については、当期純利益の大幅増と3月に実施した公募増資によるキャッシュ・インもあり、最終的には期首より23億円の改善となりました。

2015年3月期 損益計算書サマリー

売上高及び各段階利益が前年実績、修正予想を上回る結果となった。

(単位:百万円)

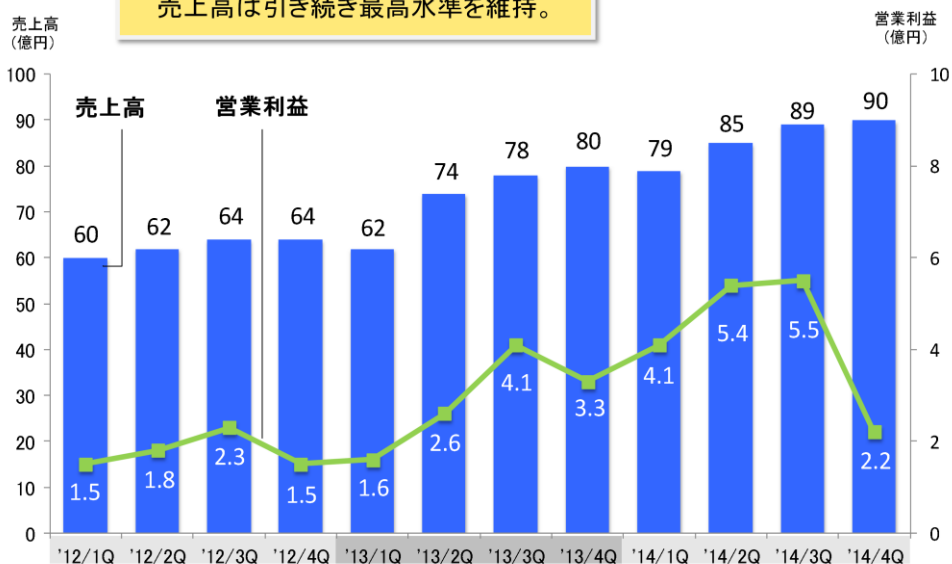
	2014年3月期 (実績)	2015年3月期			
		修正予想 (2015/2/6公表)	実績	前年差 (前年比)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	29,436	34,040	34,392	4,956 (116.8%)	352 (101.0%)
営業利益	3.9% 1,161	5.0% 1,711	5.0% 1,724	562 (148.4%)	13 (100.8%)
経常利益	3.6% 1,047	4.7% 1,600	4.7% 1,617	569 (154.4%)	17 (101.1%)
当期純利益	2.4% 720	3.3% 1,134	3.5% 1,188	467 (164.9%)	54 (104.8%)

▶決算数値の概要です。

- 売上高は343億円で、前年比117%、50億円の増収となっています。
約15億円の為替変動の影響を除いても、34億円の実質増収という結果となりました。
- 営業利益は1,724百万円、
経常利益は1,617百万円、
当期純利益は1,188百万円となっています。
- 四半期ごとに振り返ると、第1四半期は、国内の消費税見直しや中国の春節の影響が想定より少なく、大幅な増収増益となり出来過ぎの感がありましたが、第2四半期から第3四半期にかけて国内市場がスローダウンしました。第4四半期にはやや回復の兆しもあり、何とか売上・利益ともに、2月6日に公表した業績予想を確保することができました。

売上高と営業利益の推移

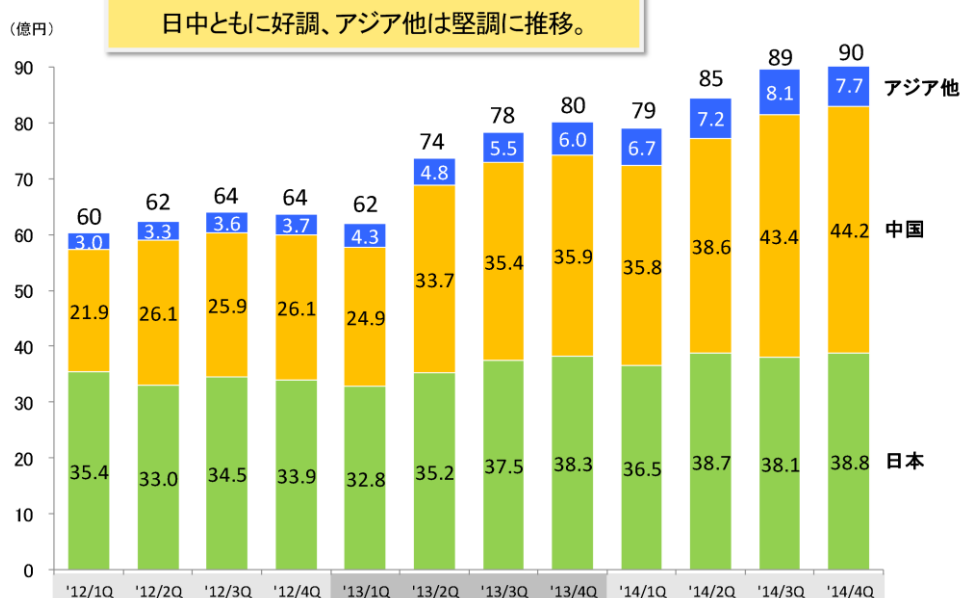
売上高は引き続き最高水準を維持。



▶売上高と営業利益の推移です。

□売上高は、四半期ベースで2012年以降最高水準を維持していますが、営業利益は、第3四半期からは大きく減益となっています。これは、創業40周年記念配当とあわせ、記念賞与を支給したことや、研究開発等を前倒しで実施したことなどによるものです。実質的には第3四半期レベルの営業利益を確保していると認識しています。

地域別売上高



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

12

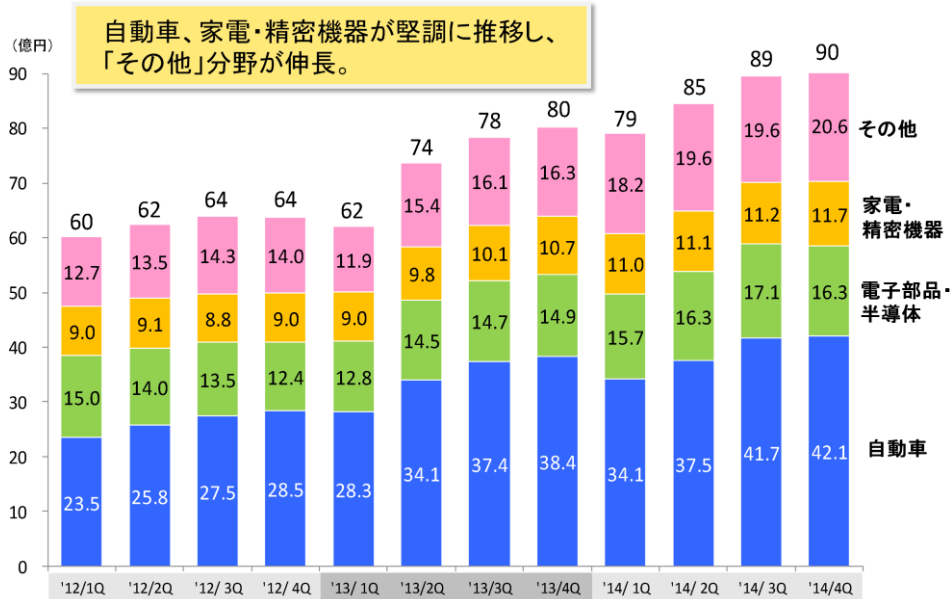
▶地域別の売上高です。

□国内は、国内外の幅広い業種で設備投資が回復したことなどを背景に受注が増加し、ここ数年で最高水準となりました。

□中国は、自動車や家電・精密機器を中心に幅広い業種で好調だったこともあり、過去最高を更新しました。

□また、アジア他は引き続き堅調に推移しています。

業種別売上高



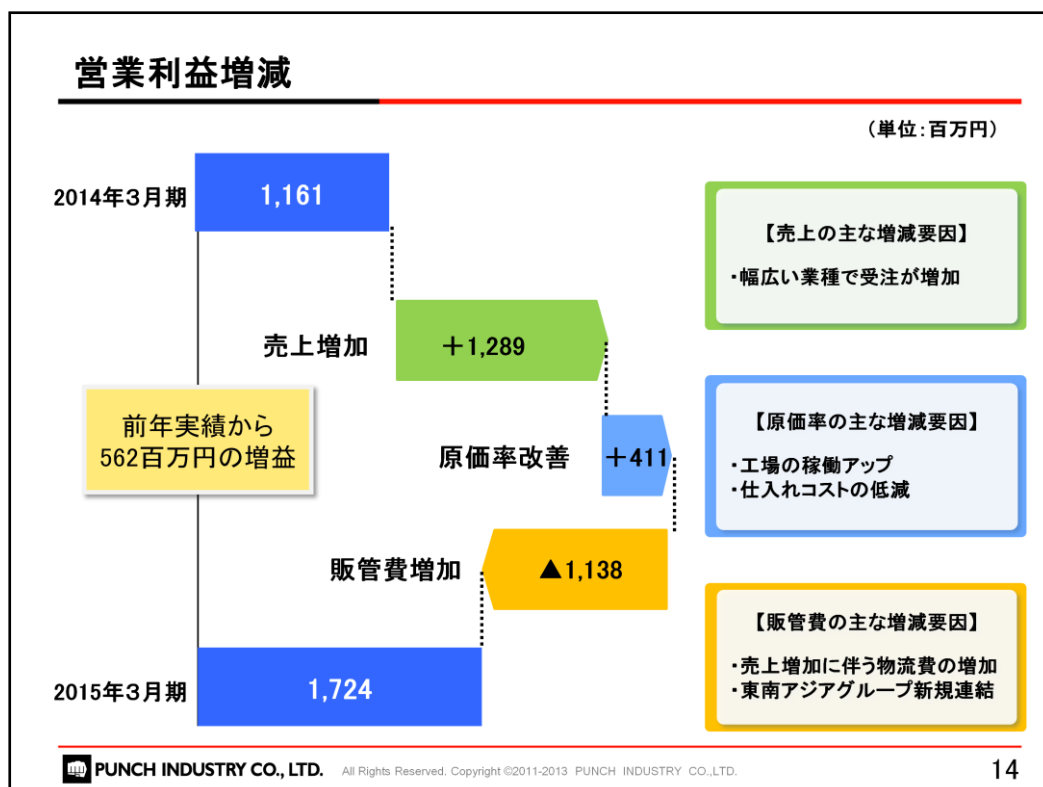
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

13

▶業種別売上高のグラフです。

□日中ともに、自動車、家電・精密機器が堅調に推移しました。加えて、力を入れて取組んでいる国内の食品・飲料関連等の好調や、中国の戦略製品は引き続き順調に拡大しており、新分野である「その他」が伸長しています。



▶ 営業利益の増減グラフです。

□ 前年実績の11億円から、
売上高の増加に伴う利益増の12億円に加え、
国内工場の稼働の向上及び仕入コスト低減等による原価率の改善で4億円。

□ また、東南アジアグループの新規連結等もあり、販管費は11億円増加したため、
当期実績は17億円となり、前年に対し5億円増加となっています。

2015年3月期 貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2014年3月期末	2015年3月期末	比較増減
総資産	24,471	29,623	5,152
総負債	15,108	15,418	310
うち有利子負債	7,743	7,155	▲588
純資産	9,362	14,205	4,842
ネット資金	▲6,216	▲3,853	2,362
自己資本比率	38.2%	47.9%	9.7ポイント
自己資本利益率(ROE)	9.6%	10.1%	0.5ポイント
設備投資額(無形固定資産含む)	621	1,296	675
減価償却費(無形固定資産含む)	1,170	1,316	146



▶財務状況です。

□総資産は、売上増による売掛債権の増加等により51億円増加しています。

総負債は、支払債務の増加等により3億円増加しています。

純資産は、当期純利益の計上に加え、為替換算調整勘定の増加や、公募増資等により48億円増えています。

ネット資金は、フリーキャッシュ・フローに加え公募増資による現金の増加等により前年より23.6億円の増加となっています。

□前年に対して、自己資本比率は9.7ポイント増の48%、ROEは0.5ポイント改善の10.1%となっています。

□設備投資は、13億円となっています。

□3月に実施しました公募増資の資金は、設備投資に加え、中国や東南アジアグループへの投融資資金、また、一部は短期借入金の返済資金に充当する予定です。

2015年3月期 キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2014年3月期	2015年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,194	1,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,252	▲1,180
フリーキャッシュ・フロー	▲58	624
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲370	1,013
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	▲234	1,795
現金及び現金同等物の期末残高	1,506	3,302

▶キャッシュ・フローの状況です。

□業容拡大に伴う運転資金の増加や設備投資のによる支出はあったものの、
税前利益の計上によりフリーキャッシュ・フローは6億円の収入となりました。

3. 2016年3月期 業績予想

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶ 2016年3月期の業績予想です。

2016年3月期 業績予想概況

経済環境は依然として不透明感があるものの、中期経営計画「バリュークリエーション15」の次のフェーズも視野に入れつつ、各施策を着実に実行し、増収増益を目指す。

売上	連結	自動車や電子部品・半導体を更に強化し、中国、東南アジア、インドでの積極的な展開、欧米での販路拡大、新市場・新分野の開拓で前年比8%増の370億円を見込む。
	日本	堅調な自動車、家電・精密機器、産業機械を更に強化し、食品・飲料関連等の新分野の拡大を図り、前年比3%増の156億円を見込む。
	中国	堅調に推移すると見られる自動車や電子部品関連を中心に販売を強化するとともに、戦略製品の拡販及び内陸部展開を進め、前年比9%増の177億円を見込む。
	その他	東南アジア・インドでの事業拡大及び欧米での拡販を行い、37億円を見込む。
利益		単体収益体質改革活動に加えて、中国の戦略製品の拡販やその他の地域での事業拡大等により増加を見込むものの、引き続き研究開発強化等による先行投資もあり、営業利益は20億円、当期純利益は13億円を見込む。

▶ 2016年3月期の業績予想です。

- 経営環境は依然として楽観視できない状況ですが、当社グループとしては、中期経営計画「バリュークリエーション15」の最終年度に確実に目標を達成し、次のフェーズへバトンタッチできるよう各施策にしっかりと取組み増収増益を目指します。
- 中期経営計画「バリュークリエーション15」の次のフェーズを視野に入れつつ、研究開発強化など先行投資を積極的に進め、営業利益20億円、当期利益13億円を目指します。

2016年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2015年3月期 (実績)		2016年3月期 (予想)		前年差	前年比
売上高	34,392		37,000		2,607	107.6%
営業利益	5.0%	1,724	5.4%	2,000	275	116.0%
経常利益	4.7%	1,617	5.1%	1,900	282	117.5%
当期純利益	3.5%	1,188	3.5%	1,300	111	109.4%
自己資本利益率 (ROE)	10.1%		8.8%		▲1.3ポイント	

2016年3月期
配当予想

中間 12円50銭 + 期末 12円50銭 = 25円



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

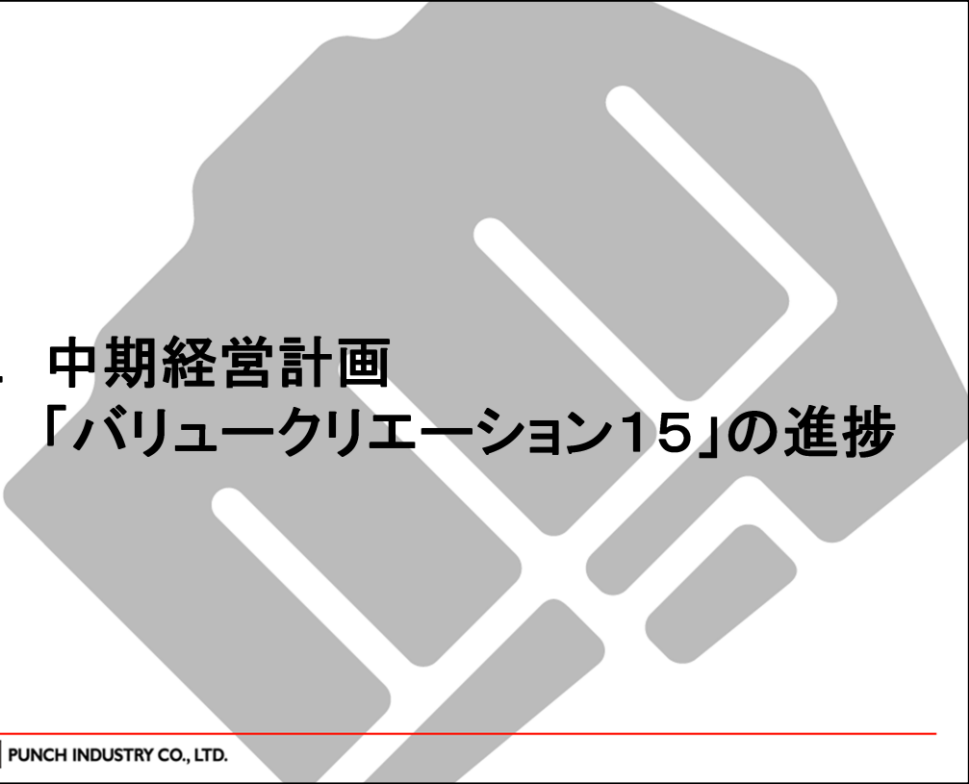
19

▶2016年3月期業績予想数値の概要です。

□売上370億円、営業利益20億円、当期純利益13億円を見込んでいます。

□ROEについては、当期純利益は前年より1億円の増益となっているものの、公募増資の影響により自己資本が増加したことで、前年より1.3ポイント低い8.8%を見込んでいます。今後、ROEの改善に向け、高収益事業への取組みを進めます。

□配当については、12円50銭の中間配当を実施し、年間配当は25円を予定しています。当社は、新たなステージに向けグローバル展開に取り組んでいる成長途上にある会社であると考えており、財務基盤の健全化等を図りつつ、将来の成長戦略への投資を積極的に行うことで高収益、高ROEを目指し、中長期的に、株主の皆様のご期待に応えてまいります。



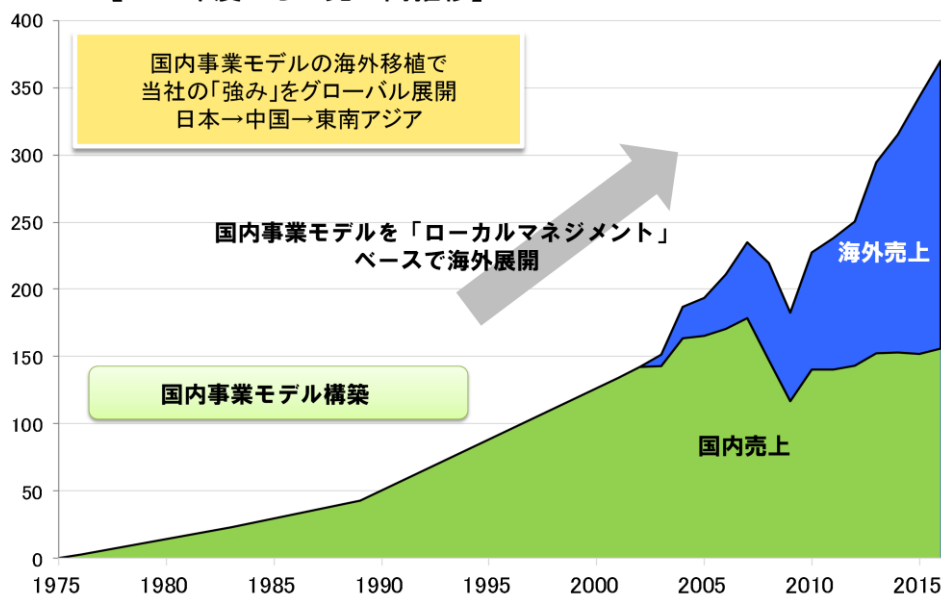
4. 中期経営計画 「バリュークリエーション15」の進捗

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶ 中期経営計画「バリュークリエーション15」の進捗状況です。

パンチグループの歩み

(億円) 【1975年度からの売上高推移】



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

21

▶ グループ連結売上高の推移グラフです。

(※過去の数値は概算ですので、イメージ的にご覧下さい。)

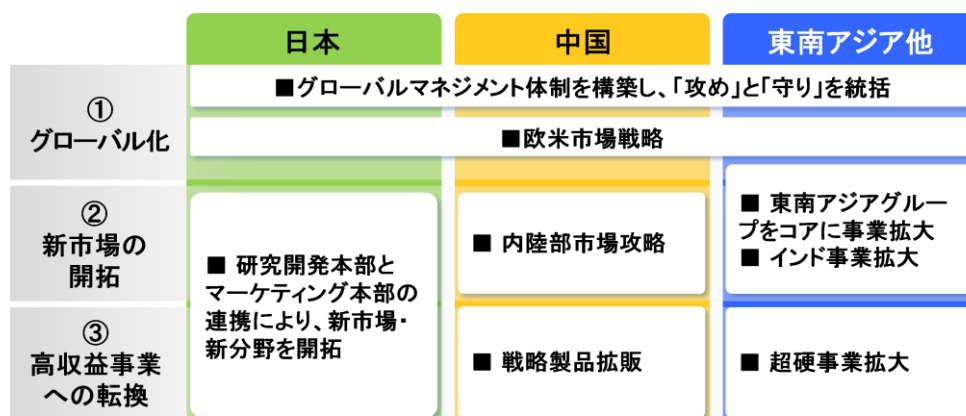
□ 過去40年を振り返ると、ITバブル崩壊やリーマンショックでの一時的落込みはあったものの、基調としては、国内での事業基盤をベースに、中国での事業拡大を加え、着実に事業規模を拡大してきました。

□ 2012年12月の株式上場を機に、パンチグループとしての新たなステージに向けた成長戦略を推進すべく、2016年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画「バリュークリエーション15」を策定し、現在パンチグループ一丸となって取組んでおり、まさに、最後の総仕上げに入ったところです。

□ 国内売上に、海外(主に中国、更には東南アジア、インド、欧米等)を加え、グローバルに事業展開を進めていくことが、「バリュークリエーション15」の骨子です。

中期経営計画「バリュークリエーション15」の基本戦略

中期経営計画「バリュークリエーション15」の総仕上げを行い、次のフェーズへ。



世界のパンチを目指し、経営基盤を更に強化

▶「バリュークリエーション15」の基本戦略です。

□2013年から掲げている、対処すべき三つの課題、即ち

- ①グローバル化
- ②新規分野も含めた新市場の開拓
- ③高収益事業への転換

に、攻めと守りの両面から積極的に取組んでいく、というのが基本の考え方です。

□「攻め」については、グローバル視点でのマーケティング戦略で、「守り」については、グローバルマネジメント体制及び研究開発体制の強化と、2013年から取組んでいる収益体質改革で、「攻め」をしっかりと支援していくという考え方で取組んでいます。

□次に、この3つの課題への取組状況について地域別にご説明します。

地域別の進捗①日本

2014年4月に研究開発本部を新設し、日中連携による研究開発体制を強化。2015年4月には経営戦略室とマーケティング本部を新設し、グローバル展開を加速。

【主要なプロジェクト】



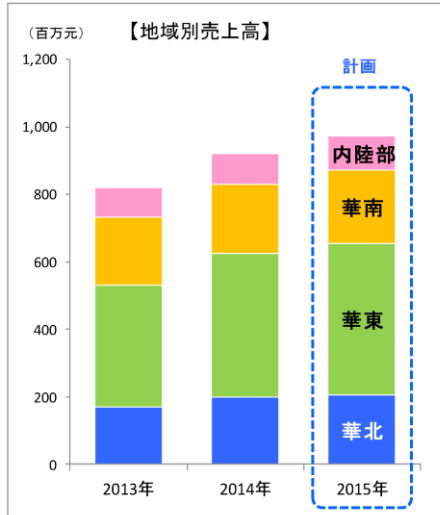
▶ 日本の進捗についてです。

- 昨年11月に設置したグローバル事業本部の体制をより強化すべく、この4月より、グローバル事業本部を発展的に解消し、傘下のマーケティング部は更にその機能を拡充していくためマーケティング本部として再スタートさせました。事業戦略部は従来の経営企画室と統合し、経営戦略室として、経営戦略と事業戦略を同期させながら、次のフェーズに向けた中長期戦略を構築し、グループとして企業価値の向上に取り組んでいく体制としました。
- 昨年4月に設置した研究開発本部が主体となって体制整備を進め、日中共同という風土も醸成されてきています。ここは、設備投資や人的投資も含め更に強化します。マーケティング本部との連携で、製販一体という当社の強みを一層強化し、新市場・新分野の開拓を加速させます。
- また、チャートはありませんが、この4月には管理部門体制も刷新し管理本部として一元化しました。コーポレートガバナンス・コード等の世の中の大きな潮流に遅れることのないガバナンス体制、機能の強化や、ROEも意識したグループ財務体質の強化、そして世界のパンチを担っていく、グローバルに攻めることの出来る人材の育成、確保にも取り組みます。

地域別の進捗②中国

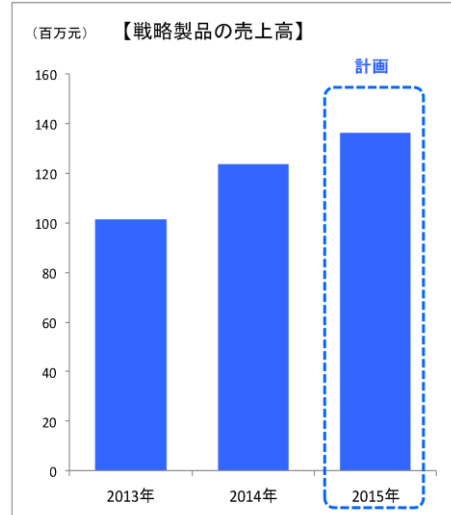
内陸部攻略

内陸部市場は引き続き拡大しており、
需要を着実に取込む。



戦略製品拡販

戦略製品のラインアップ拡充に取り組む。



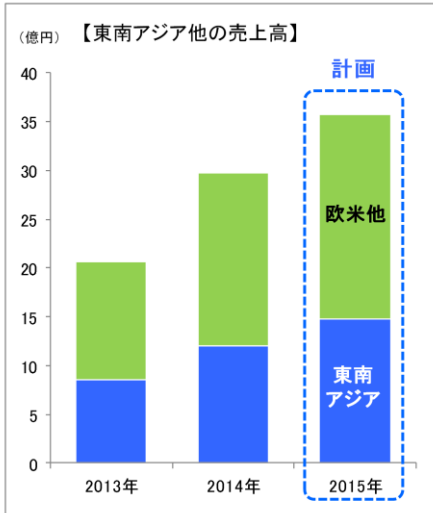
►中国の進捗についてです。

- 中国経済減速云々と言われていますが、経営環境のところでお話したとおり、巨大市場が、そして金型市場も着実に伸びています。今年で設立25周年を迎えた中国グループも一貫して拡大基調を維持しています。
- 「バリュークリエーション15」において、特に当社が重点的に取り組んでいる重慶工場については、スタート当初より、内陸部において拡大する需要を着実に取込んできた結果、当初の予想を上回るペースで稼働が向上しています。
- また、「バリュークリエーション15」のもう一つの軸で、「戦略製品」と呼んでいる4分野の高付加価値製品の拡販についても、引き続き想定を上回るペースで進んでいます。それに加えて、戦略製品のラインアップ充実に向けた動きも活発化しており、「高収益事業モデルへの転換」の加速に向け着実に進んでいます。

地域別の進捗③東南アジア他・インド

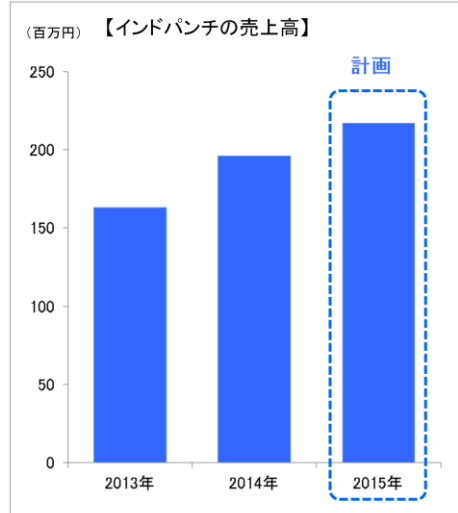
東南アジア他

国境を越えた横展開で、販売体制を強化。



インドパンチ

経済成長に合わせた事業領域の拡大に取組む。

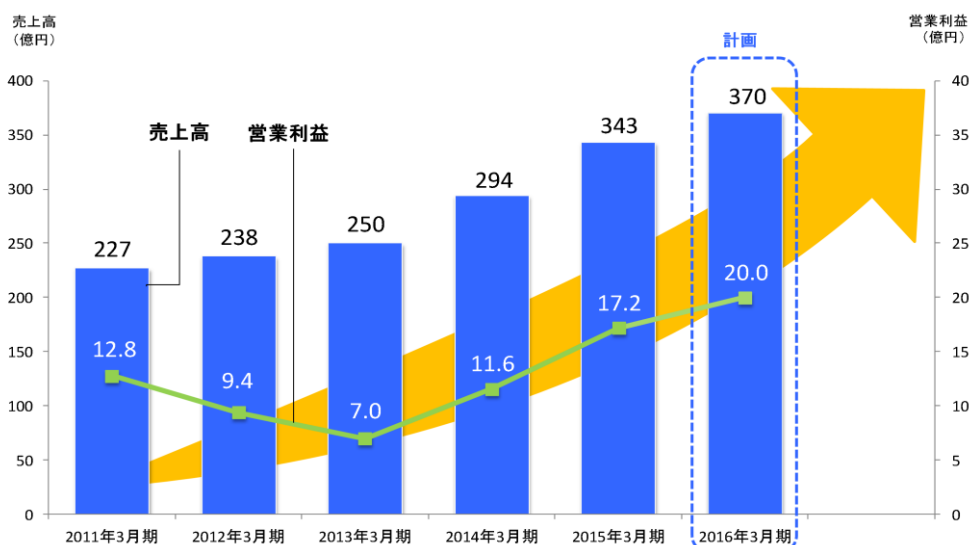


▶東南アジア他・インドの進捗についてです。

- 東南アジアグループにおいては、パンチグループの製販一体、製造直販のビジネスモデル構築と、40年間培ってきたものづくりのDNAを、東南アジアグループ全社員一人ひとりに浸透させ、共有できるよう、クロスボーダーでの連携体制の強化に取り組んでいます。
- 販売面では、先ほども触れました、昨年4月に新設したベトナムのハノイでの受注も好調であり、インドネシアでの合併事業も本格的な軌道に乗せるべく取り組んでいます。
- また、生産面では、東南アジア域内や欧州での新規受注の拡大もあり、マレーシアパンチの生産能力増強を目的とした設備投資も進めます。
- 一方、中国及びマレーシアからの欧州等への輸出も堅調に推移しており、昨年5月にはドイツで、9月にはイギリスにおいて新たな代理店契約も締結しました。パンチグループ各社の強みを活かし、代理店との連携も更に密にし、パンチブランドの拡販を進めます。
- 今年で設立5周年を迎えるインドパンチについては、日本・中国からの輸入販売、という事業基盤がしっかりとしてきました。現在は、南東部のチェンナイ1拠点で取り組んでいます。今後は、北部含め、活動エリアも拡大し、マーケティング本部からの支援の強化も含め、インド市場の持つ将来的な成長可能性をしっかりと捉えながら取り組んでいきます。

次のフェーズに向けて

持続的な企業価値の向上を確実なものとするべく、次のフェーズを視野に入れる。



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

26

□営業利益については、終了した2015年3月期が17億円となり、中期経営計画「バリュークリエーション15」の最終目標である営業利益20億円まで、あともう1歩というところまで来ていますが、一方で、足元の経営環境には不透明感が否めないことも事実です。従いまして、「バリュークリエーション15」で掲げた具体的施策にしっかりと取り組み業績予想数値を着実に確保していきたいと考えています。

□そして、経営目線としては次の中長期的フェーズも視野に入れ、積極的に仕込みもやっていきたいと考えています。そういう意味でも、2016年3月期については、将来、振り返ってみたとき、営業利益20億円はパンチグループ飛躍の通過点だった、と言えるよう、グループを上げて目標達成に向けて取り組みます。

■各資料につきましては、弊社HPよりご覧ください。

◆決算短信

<http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

◆決算説明資料

<http://www.punch.co.jp/ir/library/setsumei.html>

◆IRニュース一覧

<http://www.punch.co.jp/ir/2015/>

5. 参考資料

会社概要

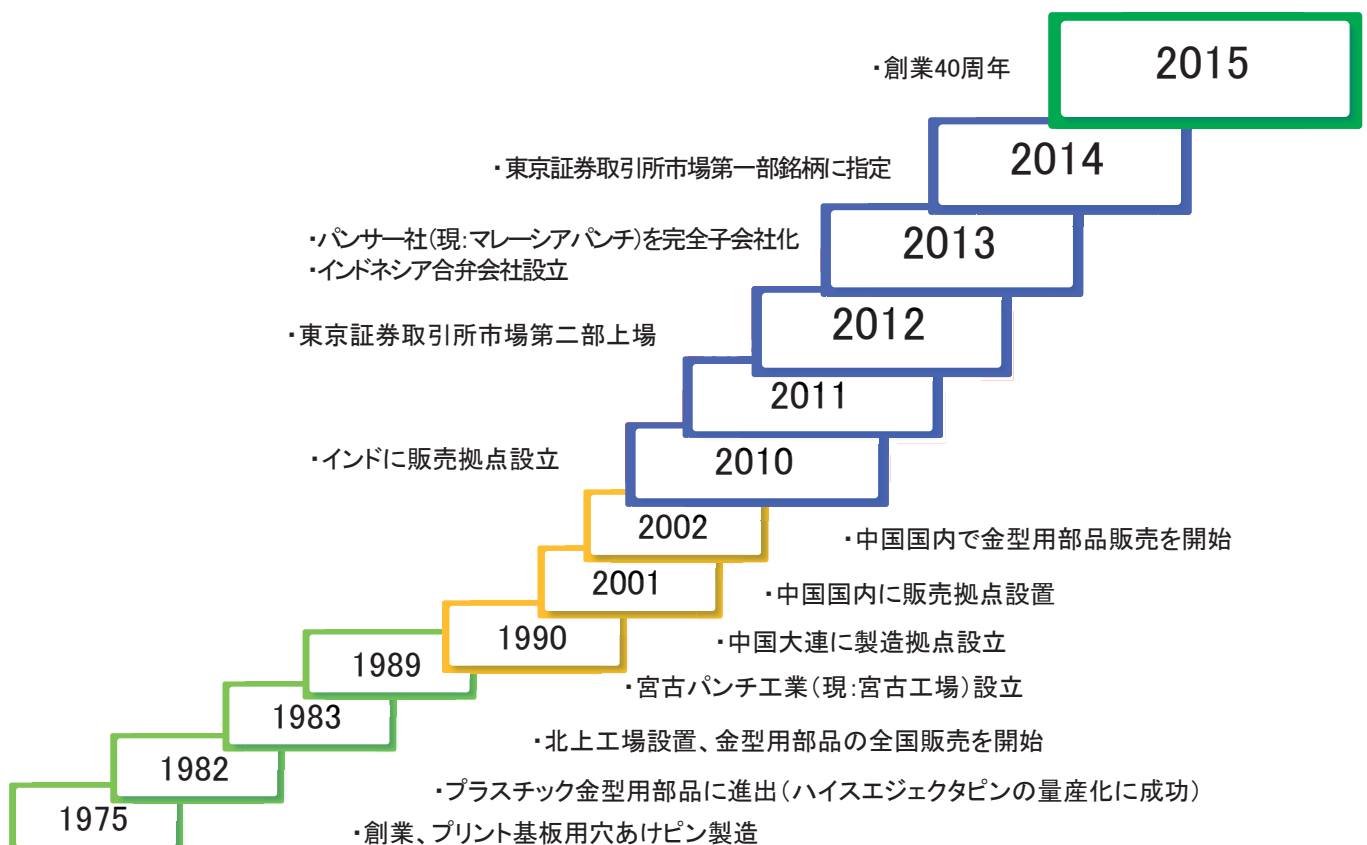
会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都港区港南二丁目12番23号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	3,833名(グループ連結、2015年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD.(マレーシア・クアラルンプール)※ PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア)

※PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD. は、PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.に事業を移管したため、清算手続中であります。

パンチグループのネットワーク

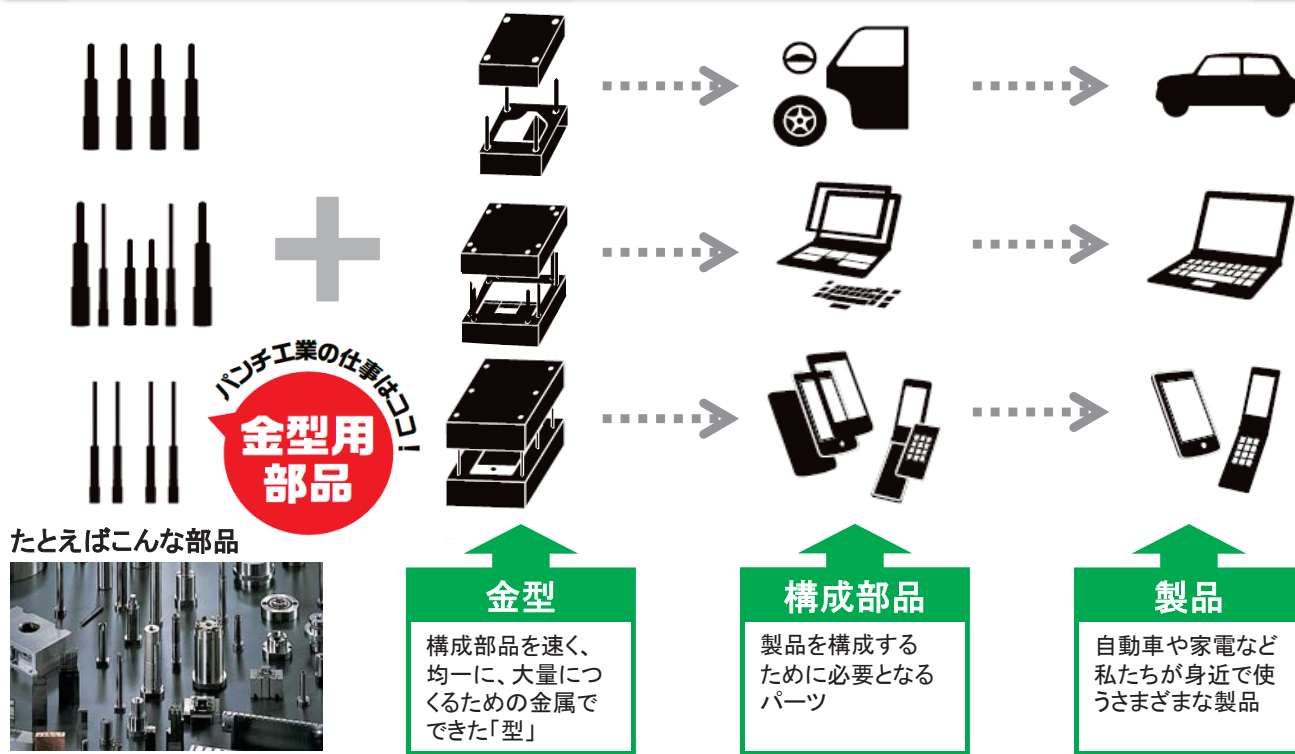


沿革

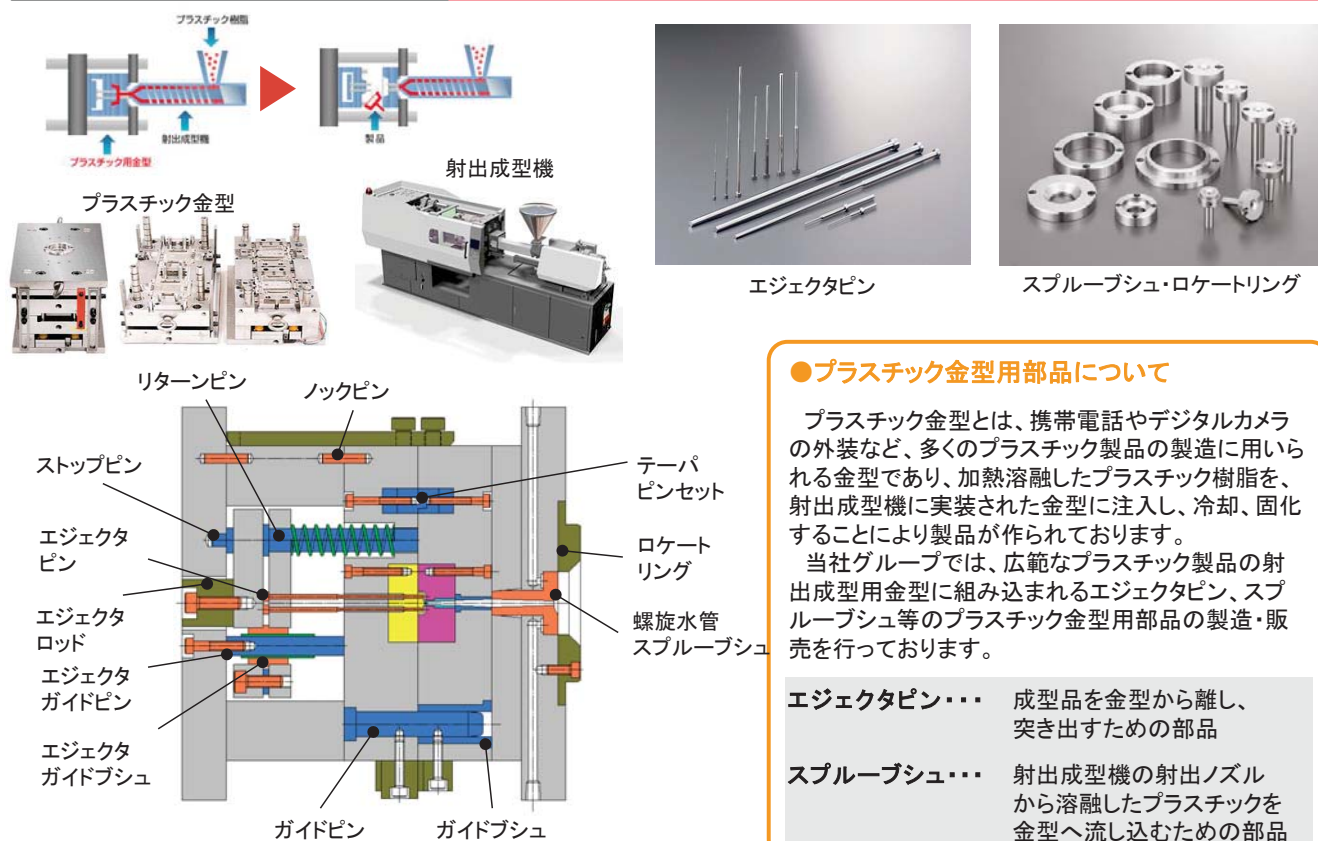


事業内容

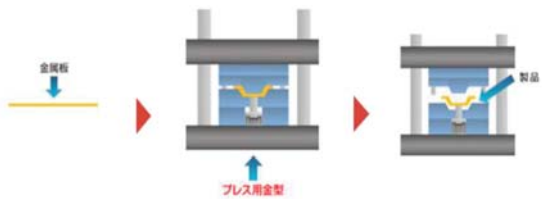
金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



プラスチック金型と金型用部品



プレス金型と金型用部品



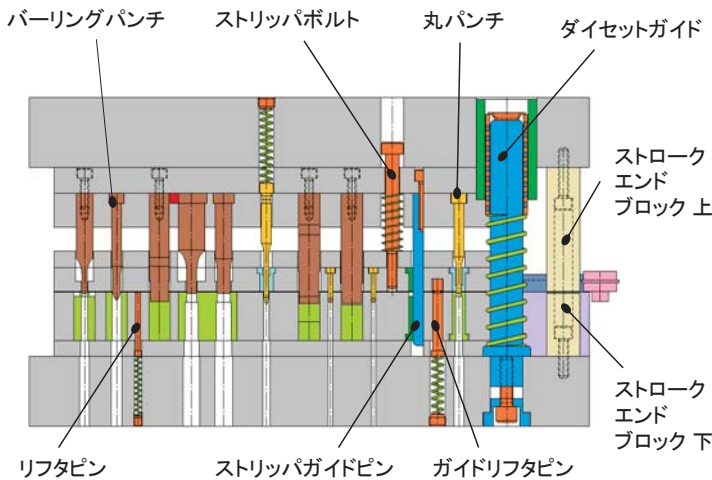
プレス金型



パンチ



ダイセットガイド



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用する金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用品の製造・販売を行っております。

- パンチ**.....パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
- ダイセットガイド**...上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品



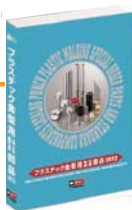
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

33

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供



カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ

スピーディなソリューション

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応



一気通貫の生産体制
1,700台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

高い技術力
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

34

CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

企業ビジョン



世界のパンチへ

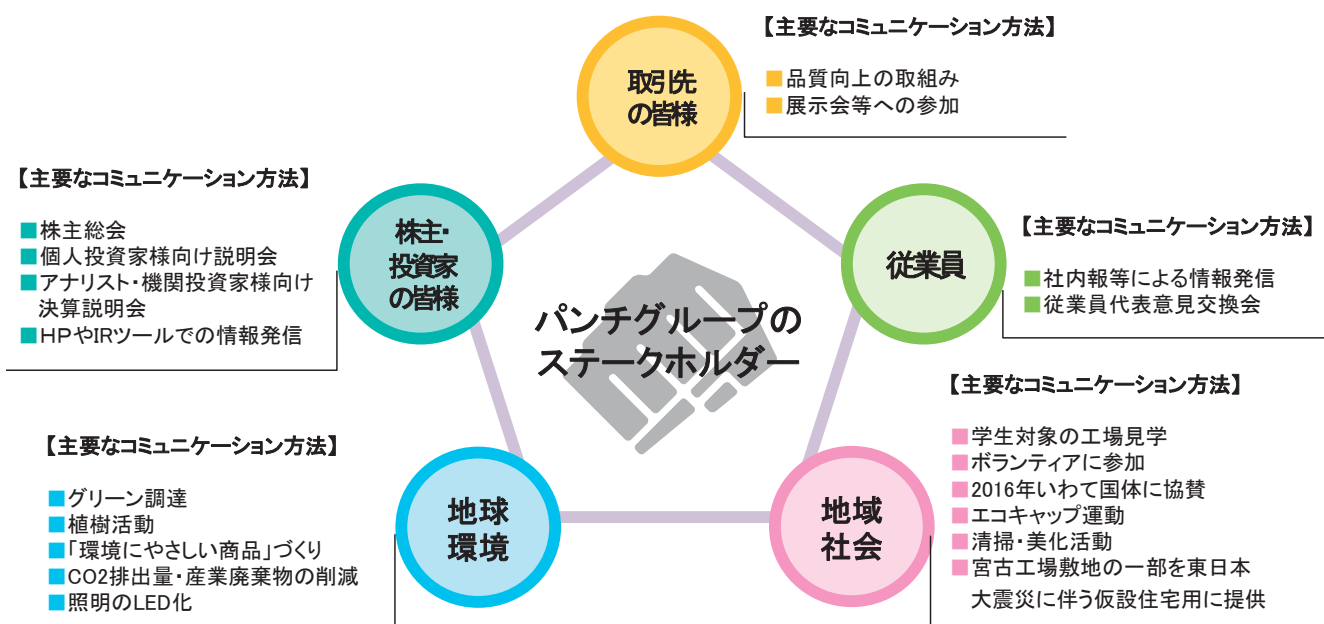
金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

35

ステークホルダーとのコミュニケーション



決算説明会の様子



個人投資家様向け会社説明会の様子



植樹活動の様子



エコキャップ運動



【環境にやさしい】マーク



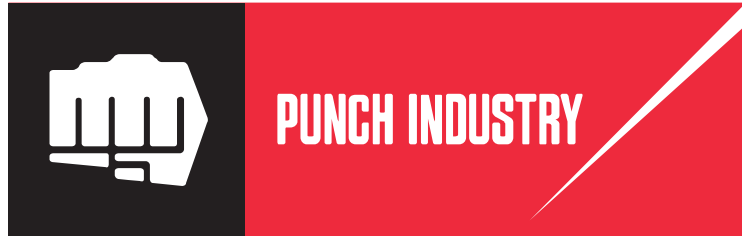
PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

36

本日はありがとうございました。

IRに関するお問い合わせ先

パンチ工業株式会社 総務部コーポレート課
電話: 03-5460-8237 e-mail: info-corp@punch.co.jp



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。